

藤岡南地域会議 答申内容『藤岡南地区だからこそできる実現可能なまちづくりの姿・役割』

別紙

「藤岡南地区だからこそできる実現可能なまちづくりの姿・役割」を念頭に、(仮)ミライ構想のめざす姿「つながる・つくる・暮らし楽しむまち」に「深化するまち」の視点を加え、子どもたちが愛着・誇りを感じられる「ミライのまちづくり」について検討しましたので、以下のとおり提案します。

地区区分	都市構造区分	つながる 【何と何がつながる】	つくる 【何をつくる】	暮らし楽しむまち 【どんな暮らしが楽しめるまち】	深化（見方/思考/行動） 【何を变える】
藤岡南地区内で つながる 徒歩圏内	生活 (地域の居場所)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと高齢者 地区アドバイザー わくわく活動団体 交流館と学校と区民会館 子ども園と幼稚園 人と自然 愛知県緑化センター 昭和の森 	徒歩圏内で移動できる地区内にシブボルのゾーンをつくり、子どもと高齢者ボランティアや特技ある人が出会う場、心のふれあいを感じる「小さなつながり」の場をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 昔遊び、郷土料理を学ぶ ゴミ拾いと名所巡り 子どもの学習の場 交流イベント（藤岡南ふれあいフェスティバル、オカリナコンサート） 	藤岡南ふれあいフェスティバルの開催地の4会場、自然豊かな県の施設を有効活用し、多様な文化、自然あふれる環境の中で、「藤岡南地区の子どもと地域全体が一緒」に暮らしを楽しむまちになる。	【思考】 <ul style="list-style-type: none"> 子どもに様々な体験させたいと思える地元づくり。 各自治区の施設を地区内外の人も利用できるようにする。 【行動】 <ul style="list-style-type: none"> 子どもは、遠くで遊ばず、地域がよいと思える思い出づくり。
	生活 (居住)	3世代家族 高齢者と子育て世代	高齢者が子育て支援に協力する「風土」をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 3世代同居住宅の宅地造成 子どもの食事支援制度 高齢者の雇用の場の促進 	有給休暇の取りやすい企業風土を培い、3世代で子どもと夢を語るまちをつくる。	【行動】 <ul style="list-style-type: none"> 祖父母が孫の世話をを行い、社会常識を共に考える。
	防災	近所同士 避難場所と在宅 <ul style="list-style-type: none"> 地域支援者と要支援者等 避難場所と企業 防災訓練と遊び	隣近所、隣接地区と防災訓練を一緒に実施することで、「近助のコミュニティ」をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 猿投地区との合同訓練 要支援者支援システムの構築 自治区と企業の防災協定 愛知県緑化センター、昭和の森にテント泊エリアを整備 	地区の枠を超えた近所同士での防災訓練、ライフライン停止状態の対応方法を学ぶキャンプ体験など日々の日常生活を楽しみながら災害リスクを考えるまちになる。	【思考】 <ul style="list-style-type: none"> 避難所へ避難から、在宅避難を推奨する。
自転車圏内 車両利用圏内 公共交通機関利用圏内	生活 (地域の居場所)	高齢者と店 高齢者とデジタル 移動手段のない人と病院・店 (移動スーパー含む)	近所で共助できる「ライドシェアリング」のボランティア活動に取り組む。歩道、店内をバリアフリー化し、「高齢者が安全に移動できる手段・動線」をつくる。	高齢者の情報収集や移動手段が増え、自由に歩いて、車椅子で移動しやすくなると、出掛けることが楽しめるまちとなる。	【行動】 <ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化により、高齢者が一人でも出掛けられる。
	移動 (交通)	藤岡南地区と名鉄猿投駅 藤岡南地区と通学バス	<ul style="list-style-type: none"> 猿投地区と「猿投駅までのバス路線」をつくる。 	通学に電車利用の選択ができると、送迎による交通渋滞は解消され、生活の自由度が増すまちとなる。	【思考】 <ul style="list-style-type: none"> 学校区問わない通学バスを利用し、通学できる。

地区区分	都市構造区分	つながる 【何と何がつながる】	つくる 【何をつくる】	暮らし楽しむまち 【どんな暮らしが楽しめるまち】	深化（見方/思考/行動） 【何を変える】
藤岡南地区と藤岡地区でつながる	生活 (イベント・文化)	4つの小学校 藤岡の棒の手 農村舞台「9か所」 自治区「藤岡18・藤岡南6」	<ul style="list-style-type: none"> ・地区対抗運動会の開催 ・棒の手体験会 ・郷土料理の給食参観 ・オール藤岡「ふじおか紅葉まつり」の開催 	藤岡南地区内では経験できない文化を藤岡地区との交流により学ぶことができ、藤岡地域全体で楽しめるまちとなる。	【行動】 ・数年前は、同じ地区であったことから、文化は共有しやすい。
広域圏でつながる	生活 (観光・イベント・文化)	藤岡・小原・足助・旭 <ul style="list-style-type: none"> ・温泉 ・農村歌舞伎 ・農村舞台 ・棒の手 	<p>東海環状自動車道の豊田藤岡インター付近で、観光案内及び農産物を販売し、各地区の「活動拠点と連携」の場をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇巡りパスポート」の発行。 ・猿投温泉、どんぐりの湯、石畳足湯など温泉巡り ・農村舞台「84か所」巡り 	イベントで棒の手や農村舞台歌舞伎を演じ、西三河の文化を知ってもらい、各地区との連携を深め、賑わいを持ちながら暮らし楽しむまちになる。	【行動】 ・将来は中部地区の農村歌舞伎との交流を行う。
	生活 (都市部と山間部)	人口増加地区と人口減少地区 都市部のこどもと山間部のこども 他地域に気軽に「横断」	<p>自宅で働く環境を整えたり、未来のこども達の雇用の場を作ったり、少子化や高齢化になりにくい「強い地域」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の宿泊施設にサテライトオフィス環境を整備 ・各家庭でリモートワークできる機器を導入 ・公共施設を活用した山村留学 	人口減少地域は、地元で働くことができ、藤岡南地区住民は人口減少地区の自然豊かな場所を何度も訪問することにより、双方が暮らし豊かな生活を確保する。	【行動】 ・自然豊かなエリアで過ごすことにより気分をリフレッシュする。
都市構造のイメージ	産業 (企業誘致)	雇用の場 デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・藤岡 IC土地活用付近のみならず、交通の便をよくすることで企業誘致などをうながす。 ・将来の夢のあるベンチャー企業を大々的に誘致し、未来のこども達がデジタル化により世界とつながる夢の雇用の場をつくる。 	デジタル化に向け、こども達に楽しみながら未来に活躍できる技術を身に付けれるまちとなる。	【思考】 ・ITエリート養成のための中高一貫校をつくる。
	自然 (環境対策)	施設機能の活用	藤岡プラント、不燃物処分場の熱資源を活かし、環境問題対策の拠点を整備する。	プール、ジム等の施設を充実させることで健康につながり、親しい友人ができる「暮らし楽しむ生活」が確保される。	【思考】 ・人の雇用の場につながる資源再生工場を建設する。